

「清水勇人市長と語る」タウンミーティング【中央区】

〈開催概要〉

日 時：令和5年7月29日（土） 14:00～15:30

会 場：与野本町コミュニティセンター 1階 第3・4集会室

参加者：12名（傍聴者1名）

市出席者：市長、脱炭素社会推進課

事務局：市長公室秘書広報部広聴課

開催テーマ：地球温暖化対策について考えよう ～みんなでアクション とともに未来へ～

参加者との意見交換

●参加者

<発言1>

私はさいたま市観光ボランティアの浦和ガイド会と大宮ガイド会に所属していて、皆さんを近隣に案内して歩いています。大宮氷川神社や浦和駅を出発して、市内に行くとか、この辺を歩いています。その時によく感じるのが、氷川参道を通って氷川神社へ行くときに、氷川参道は非常に涼しいのです。大きな樹木が気温を下げてくれているみたいなのです。それから、浦和駅に集合して、いざ出ようとすると、浦和駅のところは木に覆われて涼しいのですが、出ると皆暑いねと言うわけなのです。ですから、大きな木が多くあることは温暖化対策にとっても効果があるのではないかと感じているのです。ここに写真があるのですが、台湾の台北市の写真です。これは道路のいわゆる分離帯というところ、ここは全部木で覆われています。ですから、この分離帯の中に歩道があるのですが、この中はとても涼しいです。暑い国はこういうようなことをやっています。これは何と昭和10年、日本人が設計したものなのです。

そういうことから、市として取り組んでもらいたいことは、街路樹を整備してもらえれば、少しでも我々がまちを歩いていて木陰で涼しい思いをできるのではないかなということなのです。これは非常にささいなこと、このぐらいのことだったらすぐにできるのではないかと思います。今問題になっていますが、歩道の部分の街路樹が切られて、アスファルトで埋められてしまい、そのままになっている部分は結構見受けられるのですが、あの辺にきちんと木を植えてもらって、我々が歩くときの日陰をつくっていただければ、生活する者としてはとても涼しく感じて、生活ができるのではないかと感じています。

そのためには木を選んだり、その後の管理をしたり、そういうことの専門家チームが必要かもしれません。多分今現在そういうチームが市にはないのではないかなと想像をしているのですが、理由としては、最近では街路樹として、ハナミズキが随分目立ちます。あれは温暖化対策には全く効果ない木なのです。何であんな木を植えているのかと、他の専門家もよく話題に出しています。あの辺の木を温暖化対策にもっと効果のある例えばイチョウやケヤキなどを植えて、もっと若い人のためにそういう日陰をたくさんつくって、この木の下を歩いて涼しくてよいなど、そういうような環境のまちにいただければと感じています。私ももう80過ぎていきますので、その木がちゃんと木陰をつくっているときには恐らくいないとは思いますが、ささやかなお話として提案させていただきます。

<発言2>

身近に始める地球温暖化対策について意見を述べたいと思います。

さいたま市中央区、与野のエリアで、先日のテレビ東京「アド街ック天国」でも取り上げられていましたように、バラまつりがある影響もあるのかもしれませんが、バラを自宅の庭で育てている家も多くあります。そういった個人で緑や草花を育てている場合に、肥料や刈り入れ、樹木の伐採など、メンテナンスの費用がかかってくると思います。企業でも例えばさいたまスーパーアリーナでは壁のところに植栽を植えて、地球温暖化防止に一役買っています。そういうような企業で壁に植栽を植えたり、屋上緑化したりしているような企業もあると思います。そういったことは地球温暖化防止に非常に役立つと思いますので、希望する世帯とか、企業などに対して、費用を助成していただけるとよいと思います。

逆に最近ニュースでも取り上げられていますが、公道にある樹木を市や県や国の許可なく伐採しているような会社や団体がもしあれば、そういったところには原状回復していただくように働きかけをやっていただきたいのが私の意見です。

<発言3>

皆さんの手元にこの紙を刷ってまいりました。

1番、市内における住宅の新築及びリフォームに際して給湯経路の短縮に努める義務をハウスメーカーに課していただきたいです。その背景としては、我が家は一昨年春に浴室のリフォームを行いました。浴室シャワーの水栓を開いてから、適温に達するまでの時間が、リフォーム後は以前に比べて数秒間長くなってしまいました。その理由は、給湯経路が3メートルほど長くなってしまったことでした。そのことについて住宅メーカーA社は、これは全国区の手配ですが、問題意識は全くありませんでした。

ユニットバスメーカーに問合せをして、その見解が届きました。給配管の工事は施工業者に任せていて、その長さについて社は基準を定めていない。基準がないのだから配管が長くなっても基準違反ではなく、問題ない。適切であるということでした。押しつけられた施工業者は、長さについて誰からも教育も指導も受けたことはない。どこの家でも同じですよ。栓を開いてもすぐにお湯は出ないのです。しばらく待っているとお湯は出るものではないということでした。そのハウスメーカーもユニットバスのメーカーも施工業者もこんな認識なのですね。結果的に私の家のシャワーは数秒間遅れるということになってしまい、毎日毎日何リットルかのお湯を無駄にして、熱エネルギーを無駄にし、二酸化炭素を排出することになってしまいました。

我が家の3メートルの事例を人口130万人に換算すると、驚くべき数字になります。1年で水道水は95万立方メートル、給湯エネルギーは年で3万メガカロリー、二酸化炭素排出量は年7,500トンに達します。私が申し上げたハウスメーカーに検討させる義務というのは、工事費用を増やしたり、新たな何かを追加したりするものではなく、むしろ給湯経路が短くなると、材料を短くできるメリットもあるぐらいです。管理上は微増かもしれませんが、利用者にちゃんと考えさせることができるようになると、皆さんが考えることが波及効果を続々と生んでいくことになるのではないかと私は思います。一緒にこういうことを、東京都の小池さんの屋根に全部太陽光発電設備をつける条例のように、さいたま市でも何かやってくれませんか。

<発言4>

私が申し上げたいことは、意見交換の項目の3つ全体に関わるようなことなのですが、先ほど市長からお話のありましたいろいろなさいたま市の取組というのは、今までを前提にしている取組であって、大もとのものがないのではないかと私は思います。つまり地球温暖化を防ぐためにはどうしたらいいのだという根本が大事だとお話を聞いていて思いました。

どうしてかと申しますと、今さいたま市はごみの収集、リサイクル、いろいろな努力をされているのは目に見えてわかっています。しかしそれを経済効果という面で業者、企業が考えると、わかりやすく言えば皆さんが飲まれている薬の薬袋のところにプラスチック製のお名前を貼ったものを出されるとか、あと、薬剤を梱包するシートは、昔は単純にプラスチックだけ、アルミだけで作られていたものが、今は製造法上の中でアルミと紙を使っているなど、複数の素材で作られています。そうすると分別して出せません。ごみマニュアルを見ると、燃えるごみとして出してくださいと書いてあります。企業サイドから見ると、どんどんいろいろなものを小さくします、経済コストを考え、いろいろな材料を混ぜると、私たちが今までやってきた分別の努力ができなくなってしまいます。先ほどお話があったような、いろいろな努力をされているにもかかわらず、ごみをいっぱい出さなければいけなくなってしまうため、政令指定都市の横の連携の中で、企業に対して、ごみの分別がしやすくなるような努力をしてほしいという発信をしているのが見えないと思うので、特にそこはもう少し努力をされる必要があるかなと思います。

あと、強いて言えば、今日お水を用意していただきました。これは全部缶です。ですが、ペットボトルの場合は、ラベルとキャップはプラスチックですよ皆さんは言います。だけど、キャップの根本にあるリングをどうしたらよいのかと思っています。そういうところに関しても、他の政令指定都市と一緒に、情報発信や改善発信をしていただきたいし、改善していただいた方が二酸化炭素の量が減るのではないかなと思っています。

<発言5>

1つ提案と、あと質問をさせていただきます。私は、地域で防災アドバイザーをやっています。中央区の場合は毎年6月に、避難場所運営訓練をやるのですが、この訓練の場所として体育館を利用しています。体育館は今、さいたま市ではエアコンを一生懸命入れていただいている中で、少し気になるのですが、かなり効率の悪い空調になるのかなという気がしています。あの大空間で開口部の多い体育館ということで、かなり冷暖房の効率が悪いと思います。そのような中で市販の高い電気を使うのではなくて、例えば再生エネルギー、太陽電池、太陽光発電設備等を使うなど、そういうことを考えた方がよいのかなという気がしています。

学校の屋上に太陽光発電設備を設置したということですが、現場を見ると、これは、かなり小さいですね。取りあえずつけたかなというぐらいで、災害時、これから電源供給いただいて使えるのですが、扇風機は10台ぐらいしか動かないようなものになっています。災害時こそエアコンを動かしたいところです。そうすると、電源がなければ太陽光発電設備で発電し、蓄電池から供給して、エアコンの半分でも動かさないかなと考えます。まだまだ屋上は、かなり広く面積が余っているということもあるし、学校の屋上は、かなり日当たりがよいので、太陽光発電設備を設置すると効率もよいのかなと思います。荷重的にはシート状のものを使用すると、既存の躯体に影響を与えることも少ないかなと思いますので、是非この辺に投資をしていただければよいのかなと思いました。

もう一つ、質問なのですが、1万5,000平米の緑地を整備するのと、1万5,000平米の建物を建設すること、そのどちらが環境によいと市長はお考えでしょうか。

<発言6>

私は、これまでの意見とはちょっと違った角度から1点申し上げたいと思っています。このテーマは、重要性は間違いないのですが、行政としては少し難しいテーマで、というのは、手段、方法がまちまちであるということと、効果測定が難しいというのがあります。私の考えでは、工場地帯を持っている川崎市や千葉市では大きな働きができると思うのですが、いわゆる市民生活レベルでの取組というのは目新しいことではなく、多くの市民が関わって積み上げていくことになると思うので、さいたま市としては、せっかくこれまで先端的なタイトルを獲得して取り組んできているので、引き続き宣伝に注力するのがよい

と思います。このテーマはやっている感を出すことが非常に重要で、効果測定はできないので、「さいたま市は取り組んでいるのです」という情報を発信し続けるとよいと思います。

例えば各区役所には「ゼロカーボン推進シティさいたま」というのぼりを置いたり、市役所の車にはそれを書いたり、あと、新市庁舎はそういう宣伝の仕掛けをつくるのもよいと思います。あと、自分の印象では、このテーマは、多分行政計画として計画立てて、論理的推論で実現することになるとと思います。1年後にこうだと言えるものではないので、結局計画はある程度当たり障りのないものをつくって、1年後の振り返りでこんな実績やりましたというのを、こういうミーティングも含めてですが、どんどん発信して、やっています感を発信し続けるとして、市民の皆さんにそれをアピールします。それを見たさいたま市民の人たちは、さいたま市というのはそういう市なのだと思います、それが1つの誇りとは言いませんが、1つのアイデンティティーになって、ごみを出すのに気をつけようかというような、一人ひとりの行動につながる可能性があると思います。

例えば池袋で今西武百貨店の跡地でもめています、家電量販店を入られたのではまのイメージが落ちると行政の方は気にしていますが、逆に言えばゼロカーボン推進シティさいたまというのを打ち出すことで、市民の意識の中に「俺たちのところはゼロカーボン推進シティなのだ」という意識が宿って、それが日常行動に反映して、ごみの出し方とかにつながることもあると思います。学校教育もそうですが、とにかく事後的な実績報告、宣伝、これを上手にやっていただくことだと思います。これは言ったら語弊がありますが、この分野はさいたま市の主戦場ではないと思います。私の意見なのですが、さいたま市は政令指定都市の中でも特異なところで、冒頭に、市長が言われましたが、さいたま市の人口は増えています。さいたまに来ていただいている人たちは、何でさいたま市に来ているかという、ゼロカーボンシティが素晴らしいから来ているのではありません。東京のベッドタウンとしての環境、東京の地価高騰に耐えられない中間層が、さいたま目指して来ているので、行政はそこに応えていく。その環境をつくっていくのが、さいたま市の主戦場だと思うので、脱炭素の取組のところにはあまり行政のリソースをかけ過ぎないで、担当課の人たちでうまくやっていただいて、宣伝で勝負してもらおうと市のリソースが最も活用できるのではないかと考えて期待しています。

<発言7>

それぞれの分野について、まず、さいたま市の地球温暖化対策については、今おっしゃった方の宣伝に尽きると思います。私は環境関係の活動をしているので、ゼロカーボンシティなどは知っていたのですが、一体さいたま市民の何人が脱炭素先行地域にさいたま市が選定されたことを知っているかどうか非常に疑問だと思うのです。どこかに書いてあるのかなと気をつけて見ているのですが、見たことはありません。SDGsの何か都市に選ばれたことも知らなかったし、脱炭素先行地域に選ばれたことも、本当に会議に出て初めて知ったという状況でしたので、そこはまずいと思うので、そこをまず啓発していただくことが第一だと思います。

あと、脱炭素先行地域に関しては、今度多分さいたま市としても7年後までに50%減らさなければいけないと思うのですが、7年後までに、一体どうやって実現するのかが私たちの関心事で、とてもじゃないけど間に合わないのではと思っています。そこはもう少し市の方から市民に対して発信していただきたいと思います。

それから、今後重点的に取り組んでほしい分野に関しては、ヒートアイランドに尽きると思っています、さいたま市が住みやすいまちだとおっしゃいましたが、暑さに関してはとんでもなく住みにくい都市だと思います。そのためには緑と水だと思います。さいたま市は、暗渠あんきよもすごく多くなっていて、暗渠は便利なのですが、水が流れることで温度が下がる部分もあります。それから、緑に関しては私が環境をやり始めたもう随分前から、

どうしてももう少し緑の保全ができないのかをずっと思っていました。特にどんどん緑地帯が建築会社に売られ、家が建ち、八王子にもドングリ山が幾つかあったと思うのですが、それがどんどん切られ、本当に緑が減っています。住宅を建てる時に、一定の緑を植えるとか、あと、コンクリートで土を覆わないで、雨水を浸透させることで、水の利用もと言われていると思うのですが、実行されていません。それから、家と家が近くに立ち過ぎていて風が通らないとか、どなたかがおっしゃっていましたが、ハウスメーカーに対する指導も市の方からあってよいのではないかとすごく思っています。

それから、身近で始める地球温暖化対策ですが、これはもう市民一同でやるしかないので、特に消費者に対して働きかけるしかありません。それなのに、環境行政と消費者行政が一体化していないところが問題だと思います。私も何度か言っているつもりなのですが、なかなかそれができない。環境フォーラムは環境フォーラムでやり、消費者展は消費者展でやり、その間のかけ橋が全然ないので、随分前から横断的にということをやっていますが、横断的にはできていないのかなと思います。

それから、市民の方に啓発するときに正しい情報の発信が必要で、実は冬の方がエネルギーを使うことを御存じない方がすごく多いです。今ツールが幾らでもありますから、もちろんホームページもあるし、あと資源循環政策課でスマートフォンのアプリでごみの出し方をやっていると思いますが、そういうところに一口メモのような形で出していくとよいと思います。どちらがエネルギー的にコストが低いのかという情報がすごく大事で、LCAと言うのですが、原材料が伐採されて、原料がつくられて、製品になって捨てられるまでの二酸化炭素のコストを見て、本当に何がよいのかを、できればそういう事例を幾つか取り上げていただいて、発信していただければ、それだけでも全然違うと思います。だから、発信することが一番大事だと思います。

最後に、その発信のためには、環境部門の職員にすごく頑張っていただかなくてはいけないと思うのですが、私は少し接する機会が多いのですが、すごく皆さんお忙しいのですよ。体を壊される方も結構いらっしゃるの、そこにもう少し人材を確保していただきたいなと思っています。

◆市長

>> 発言 1

緑地や街路樹の拡充が非常に重要だという御指摘をいただきまして、台湾の台北の街路樹のことなどを御紹介いただいて、御意見をいただいたところです。これから特に専門家なども活用して、街路樹の剪定、そして管理の仕方についてしっかり対応していったらよいのではないかと御意見でした。

私たちが全く同意見でして、街路樹をつくると、住民の方からは、特に秋になると2つの大きな意見が寄せられます。1つは、落ち葉を何とかしてくれ、できれば剪定をしてくれという御意見と、剪定をすると、何で剪定をしたのかと、こういう御意見がぶつかり合う状況です。その中で私たちとしてもよりよい選択をしていかなくてはいけないので、最終的にいろいろな判断をしながら、強剪定まではいかない剪定で収める場合や御理解をいただいて剪定は行わない場合など、いろいろあるのですが、今後街路樹の拡充をしていきたいと思っています。今回の資料は、どちらかというところ排出抑制、特にエネルギー部分の排出抑制の話が中心だったと思いますが、二酸化炭素を吸収する側の充実、拡充も非常に重要な視点だと思っていますので、どういう街路樹の剪定をし、そしてどう管理していくのか。街路樹も、どうしても木によっては歩道に根上がりして、段差ができてしまうなど、いろいろな状況があります。そういったものをうまく防ぎながら、多くの住民の皆さんにも御理解いただけるような取組の強化をしていきたいと思っています。

>> 発言 2

個人や企業がやっている川や植物、緑の活動に対して費用の助成をしてほしいという御意見と、また、街路樹のお話も出ましたが、私たちとしても、今後いろいろな形で温暖化対策については、太陽光発電設備の設置等を助成させていただいているところですが、今後どういったところをより強化していくのかも考えながらやっていく必要があると思っています。個人のところで言うと生け垣にさせていただくと補助があるのですが、現状としては木や花を植えていただくことについては、まだ、公共スペースはしていますが、個人のところまでは助成がないのが現状です。

いずれにしても、そういった吸収する側の方をどう拡充していくかというのは重要なポイントだと思っています。ちなみに街路樹に除草剤が撒かれた可能性については、さいたま市では、浦和美園のところと、あと東浦和周辺の中尾というところの2件あります。中尾の方は昨日私も見てきまして、今のところ切られていません。ただ、浦和美園の方は5本ぐらい、そこだけない状況ですので、今土壌調査も並行してやるようにしていますので、調査をしっかりとした上で適切な対応をしていきたいと考えています。場合によっては賠償や原状復帰をしていただくような対応も、状況によってはしていきたいと考えています。

>> 発言 3

リフォームの際の御経験から、給湯設備の経路を短くすることによってエネルギーが抑えられるのではないかと御提案をいただきました。十分知識がなくて今すぐに答えられませんが、検証も十分にしながら、啓発することができるようだと思いますが、ただ、もう一方で、法律、条令というものもあります。政令指定都市として、首都圏の自治体で九都県市首脳会議というのをやっています。そこではかつては、いわゆるトラックの排気ガスを抑制しようという運動をした経験もありますので、そういったことなども踏まえて、しっかり事実の検証をしながら、対応していくことも重要だなと感じたところです。

>> 発言 4

まず、いろいろ企業活動等、現状としては温暖化やごみの排出を防ぐような視点から、なかなか産業全体としてもそれに基づいた活動になっていないのではないかと。そういったことについてもっと企業サイドに働きかけていくべきではないかという御提案だったと思います。私たちも、企業もあわせて皆がやっていかなければいけない時代になってくると思います。今ペットボトルなども容器が変わってくるなど、いろいろな行動を企業の皆さんも取り始めています。こういったことも啓発や発信、そういったことも含めてやっていくことは非常に必要だと思っています。特に今、環境によいことをしている企業でないと投資が集まらない時代になりつつあります。ですから、そういった視点も含めて、企業にもできるだけ参加していただけるような様々な工夫をしていただく。あわせて、そのための発信を私たちも政令指定都市、九都県市首脳会議などでしっかりやっていかなければいけないと再認識させていただきました。

>> 発言 5

まず、体育館のエアコンの設置についてですが、御指摘のとおり、非常に天井が高くて、エアコンが利きにくい、その状況の場所にエアコン入れることは、効率的な問題というところ非常に厳しい状況の中でやらなければいけないことと私どもも認識しています。そして、エアコンをつけるだけではなくて、断熱、断密にしていくことも非常に重要だと言われていきますので、単にエアコンを設置するだけではなくて、もうちょっと違った視点も含めて対応していかないと、電気代ばかりかかってしまうことになりかねないと思いますので、そういったことも含めて実現していけるようにしていきたいと思っています。今中学校だけとなっていますが、国の制度が少し延びますと、小学校も含めて、今体育館で夏場体育の授業が非常にしにくい環境がありますので、そういった教育環境の改善、災害時の環境も、非常に厳しいと認識していますので、御指摘いただきましたそういった点も含めて考えて

いきながら、対策を打っていきたいと思います。

それから、1万5,000平米の緑にした方がよいのか、建物にした方がよいのか、それは地球温暖化という視点からはどうかということですが、もちろん地球温暖化ということだけの評価と言うと、建物もどういう建物を建てて、どういう構造にして、そういったいろいろな要素が入るので、一概には言い切れないところもあるかとは思っています。あとはその建物はどういう意味を持っていて、どういう役割を果たすのかということもあわせて私たちは考えなければいけないと思っています。緑地を保全することや、グリーンインフラを更に拡充していくことの重要性については私たちも非常に認識しています。単純にどちらがよいかという判断はできにくいところもありますが、しかし、緑地の大切さ、グリーンインフラの充実については、これまで以上に考えて、拡充していかなければいけないと考えています。

>> 発言 6

行政として取り上げるには効果測定が難しいという御指摘をいただくのと同時に、PR、発信にもっと力を入れていったらよいのではないかという御指摘をいただきました。効果測定についてはおっしゃるとおり、非常に難しいです。特に基礎自治体が行っている取組はどのような効果が上がったのかというのは非常に難しい状況です。今電気もいろいろな形で販売されているので、国を含めて、そのデータが正確には取れない状況です。私たちも結果をしっかりと把握ができるようにしてほしいと、国に要望しているところです。その中で、実際にゼロカーボンシティへの取組は、効果を市民の皆さんや事業者の皆さんにも知らせながらやっていかないと、長続きはしないと思います。効果測定が1つの課題ではありますが、こういったものをしっかりと伝えられるようにしていきたいと思っています。

それから、PRの大切さとは本当に実感するところでして、なかなか市民の皆さん、一人ひとりにその状況や危機感や内容が必ずしも十分に伝わっていないことについて、私たちも大いに反省をしなければいけないし、また、それを改善していかなければいけないと強く思っています。

そして、たくさん発信をしていくことが、自分たちの行動を変えることにもつながっていくのではないかという御意見もありました。本当にそのとおりだと思います。私たちもそういった発信をやっていきたいと思っています。リソースをかけ過ぎないようにという御指摘もごさいます。私たちとしては全体の予算のバランスの中で、もちろん重点的に取り組むものの1つにはしていますが、これだけということではありません。幾つかの重要な項目の1つとして捉えていますし、そういったもののバランスを見ながらやっていくことが重要だと思っていますので、その中で重点的ではあるが、それだけではないことは御理解をいただければと思います。

>> 発言 7

7年後までにどうやって実現をするか、この難しさは、私たちも認識しているところです。目標数値を改定して、50とか、50以上にしていこうということで検討しているのですが、実際それができるかどうか、そのための政策や行動をどうしていくかという問題があります。その中で二酸化炭素の排出を抑制することと、吸収をする緑を生かしていく、増やしていくことを並行してやっていくことと、その両方について市民の皆さん、事業者の皆さん、そして行政が一緒になってやって、共通の目標に向かって真っすぐ進んでいくことが非常に重要だと思います。その中で御指摘もいただきましたが、発信をしていく、啓発していくことが非常に重要であると思います。そこについてはしっかり対応していきたいと思っています。

それから、環境行政と消費者行政とがばらばらではないかというような御指摘もいただきました。これらについては改めてどう調整していくのか、啓発していくのかも含めて、再度検討していきたいと思っています。

また、LCAというライフ・サイクル・アセスメントということでしょうか。そういった物の製造過程から含めて、原材料の段階から全部含めて地球温暖化にどういう貢献ができるか、どのように提言していくかを含めて検討していったらよい、それをお示してくださいというお話だと思います。こういったことについてもできるだけ多くの情報をわかりやすく皆さんに伝えられるようにしていきたいと思っています。

また、アプリの活用などもお話がありました。今ごみについてはアプリを見ていただきますと、捨て方などの情報が出てきますが、こういった脱炭素に向けた取組がどういう効果があるかということが市民一人ひとりにもわかるような、そんな取組、仕掛けができるように考えていく必要があると思っています。

●参加者

< 発言 8 >

父親が少し体が不自由なので、私がほとんど家事全般をやっているのですが、資源物のごみを出す際に、資源物が例えばペットボトルや、ガラス、瀬戸物だとか、危険物がたまに混ざって出ているのを見かけるときがあります。これからのことを考えると、例えばペットボトルや危険物の出し方をもっと周知徹底していった方がよいかと思っています。

あともう一つ、4年前の10月の台風の時に、自宅の近くの霧敷川があふれそうになり、あと自宅付近の道路の土地が低いものですから、車が通った程度でも水が自宅の中に入ってきてしまいました。そういう時の土地のかさ上げなどの対策を徹底してもらいたいと思っています。

< 発言 9 >

県から委嘱を受けて地球温暖化防止活動推進委員をやっています。

皆さんに質問ですが、市長も含めて、最近2020年、遡ること2010年からの平均気温が発表されましたが、何度でしょう。続きまして、北極の氷が解けるのは何年と予想されていますでしょうか。続きまして、皆さん、コーヒーが今飲めています、いつ飲めなくなる環境になると予想されていますでしょうか。私が言いたいのは、こういったマクロなところで学校教育、環境教育というのは一切受けてないのです。今やっているのでしょうか。それが知りたいのと、あと、町内会にこういったことを子どもたちに祭りの場でお知らせしたいので、クイズ形式でやりたいと言ったら、全く無視されました。

あとは私はアイドリングストップの機能がないガソリン車は否定しています。アイドリングストップしましょうねと言うと、何だ、このじじいと言われます。

あと、水害のことなのですが、今年もありましたが、1日に200ミリも300ミリも降ったら、もうどうしようもできません。私は今1階をピロティにして、2階に住もうかと思っています。3年後の建替えを目指しています。私の家はすぐそこなのですが、高いところから水が流れてくると、20ミリの雨でも庭は水浸しです。30センチだったら床上浸水します。それを市に何とかしてくれと言っても無理です。とにかく避難する。車だけで避難します。もう家は仕方がないと思っています。市がいろいろやっているのは知っています。ここの建物も、地下に貯水槽を設けていますよね。河川も改修しました。もうそこまでです。ただ、1年間の水が3日間で降ると、これはもう太刀打ちできません。私がやっていることは、県の田んぼですが、田んぼのボランティアをしています。米をつくっています。水田のよいところは水をためてくれる、温度を下げてくれる、緑が、もちろん米も取れます。米が取れて、福祉施設に送っています。よいことづくめです。こういうことにも目を向けましょう。

あと、東京では都バスや東急バスがアイドリングストップしています。さいたま市のバスは一切していません。なぜでしょう。こういう事業者には市から言ってください。市の方もアイドリングストップしましょう。さっき言った環境委員に対することなのですが、

NPOで環境ネットワークというのが全国施設であり、そこでいろいろな情報を出しています。さっき言ったクイズの答えも出してくれています。もう既に1.1度気温が上昇しているのです。もう0.4度しかありません。ただ、ウクライナ情勢があるので、まず無理だろうという見識者がいます。

今身近でできることでは、県ではエコウィークというのを夏と冬1か月間やっていますので、そういう運動も、さいたま市も一緒になってやっていただいた方がよいのではないのでしょうか。町内会で水打ちしていたのは私だけです。水打ちぐらいやりましょうよ、せめて。

それと、いろいろ補助金ありますよね。私やったのは太陽光発電設備、あとはごみのコンポスト、それから雨水タンク、それから屋上緑化、これ県も含めてもらっているのかもしれないですが、補助金があるなら使いましょう。温暖化に対して市民ができることです。もう太陽光発電設備で1,000万円使いましたが、補助金は僅かですよ。

<発言10>

27年後、つまり2050年にカーボンニュートラルを目指しているということですが、ある程度の年までいくと、10年、20年なんてあっという間ですよ。これからの人たち、いわゆるこれから現役で働き出すとか、これから子育てに入る世代、そういった方たちに一番理解してほしいなと今私は、考えています。国連がアクトナウという個人でできる10の行動というキャンペーンを打っています。家庭での節電、徒歩や自転車では移動する、廃棄食品をなくすとか10項目ありますが、その中で一番効果的なのが、周囲に対して声を上げることだそうです。声を上げると必ず若い人にも届くと思いたいんです。性善説を取りたいです。若い人たちにもっとカーボンニュートラルがどういうことになるのか、夢の世界とは言わないですが、今よりもよい世界を目指せることを若い人たちに伝える、よいPRができる、そういう広報活動が市から発信していただければよいなと思っています。

<発言11>

地球温暖化対策とかSDGsとかよく耳にはするのですが、なかなか自分がどう対応するのがよくわからなかったのが、本日こちらに参加させていただき、いろいろ話を聞いて、自分に何かできるのかなということを思って来ました。自分は一体何をしているのかと思ったときに、本当に何も思いつかなかったのですが、先ほど打ち水の話をしたときに、孫が外で遊んでいて、すごく暑いと言ったときに、打ち水をやってみたところ、少しは涼しくなりました。

<発言12>

皆さん、家庭でもって天ぷら揚げた後の油はどうされていますか。燃えるごみに出していますか。多分そうだと思います。私、資料の10ページ見て、一部がっかりした部分があります。電気自動車を99台使っています。この分の電気をつくるのにどれだけ二酸化炭素を出していますかということです。他の自治体の例ですが、家庭の天ぷら油を全部回収して、バイオエタノールと混ぜてバイオディーゼルを作って、バイオディーゼルの公用車を使っています。その結果、公用車は走っても二酸化炭素は一切出ません。そういう自治体があります。最近のレストランの廃油は、天ぷら油は有料で業者に売れるみたいなのですが、家庭の天ぷら油は燃えるごみに出されているので、回収してもらって、公用車を走らせましょう。

◆市長

>>発言8

分別をしっかりと周知をしていくことがまだまだ十分ではないと。しっかりと周知をすべき

であるというお話と、台風19号の経験もあり、道路、土地が低いところについての対策という御要望をいただきました。

まず、分別についての周知はまだまだ不足をしていると思っておりますが、今アプリなどでもわかるように始めています。ただ、そのアプリを見て分別しようと思う人を増やさないと、アプリがあっても実際使われないといけませんから、もっと周知をしていくことの必要性を感じます。

また、土地のかさ上げの問題ですが、今自宅のかさ上げについては補助は出ません。新築される家が皆少し高く建てる感じになっているので、昔からあるお宅はどんどん低い状況になってしまっています。河川が氾濫することはそう多くはないのですが、短時間に多くの大量の雨が降ることで内水処理ができず、一定時間道路が冠水したり、場合によっては床下、床上浸水したりという状況も、最近では決して珍しくない状況になっています。今後側溝等も大体56ミリというのを基準にやってきたわけではありますが、そのレベルの雨はもうそんなに珍しくない状況になってきました。今私たちは流域治水ということで河川の改修とあわせて、大きな河川の周辺の流域でいきなり河川に水が流れていかないような工夫をしながら、できるだけ安全にするための対策も行っているところです。お金と時間がすごくかかる取組ですが、しっかりと進めていきたいと思っております。

>> 発言 9

いろいろ御提案や取組のたくさんお話をいただいて、私たちも非常に参考になることがたくさんありました。クイズ形式のお話がありました。単にこれが重要なのだという言い方もありますが、クイズのように楽しみながら知識を持ってもらうことも必要だという御提案だったと理解をしています。あまり真面目過ぎるとなかなか頭に入ってきませんが、いろいろ工夫をしながら広報していくことの大切さを改めて感じているところです。行動経済学でナッジという言葉が使われますが、同じことを言うにしても、表現を変えることで、それをより一層促せると言われています。そういったことも含めてやっていければと思います。

それから、いろいろ個人で取り組めることがあるのではないかとということで、御自身のいろいろな取組などを含めて御案内をいただいておりますので、私たちもこれから市民に呼びかける上での参考とさせていただきたいと思っております。

>> 発言10

若い世代に対して理解してもらいたいということでした。この会場でのタウンミーティングではいらっしゃいませんが、なるべくタウンミーティングも中学生、高校生、大学生、専門学校生の方々にも参加いただいて、今回のテーマで既に中学生、高校生なども別の会場で参加をいただいております。その子どもたちにとっては例えば14、15歳や18歳という年齢で、27を足しますと2050になるわけで、まさに現役世代の真っ盛り、まさに社会的な責任を負うような立場になる子どもたちであります。今回のタウンミーティングでも非常に若い世代で、自分ごと化にしてくれている子どもたちも一定数いることがわかりました。ただ、これは個人差が非常に大きいです。環境教育がどうなっているかというお話もいただきましたが、今小中学校の義務教育のところではSDGsも含めて学校ごとにそれぞれテーマを持って学んでいただく機会をつくっています。今はアクティブラーニングで、これについて考えなさいということだけではなくて、むしろ子どもたちが分野の中で自分が疑問を持っていることを自らが見つけ出して、それを解決する手段はどうしたらいいのか。こういった学び方を中心にやっておりますので、そういった中で取り組ませていただいたりもしています。

去年の11月に、さいたま市で国際会議を開催しました。それはサステナブル都市サミットということで、脱炭素が主なテーマでした。そのイベントで、小学生、中学生、高校生に参加していただいて、パネルディスカッションをやりました。そのパネルディスカ

セッションも学校にいる子どもたちともネットをつなぎながら、またその場でもパソコンを持ち込んでワークショップをしながら、自分たちが感じたこと、思ったことをどんどん書いていって、それをまた全体の会議の中でも活用して議論していくというやり方でやっていただきました。子どもたちもいろいろなことで触発されて、いろいろなよい意見も出ていたと思っています。これからの時代、若い皆さんが将来について希望が持てる、そういった社会をつくるためにしっかりとこういったこれから起こり得る様々な危機についても理解してもらいながら教育をしていくことが非常に重要だと思っています。

それから、アクトナウという運動の事例を御紹介いただきましたが、これから危機感と同時に夢と希望が持てる両方の視点から私たち若い世代にいろいろ学ぶ場、感じてもらえる場、五感でしっかりと捉えていただくものをつくっていきたいと思います。

>> 発言11

いろいろ参加していただいているお話を聞いて、打ち水のお話であるとか、具体的に取り組むことについて、気づきがあったという御意見をいただきました。小さなことでも私たちが皆で取り組むこと、それが積み重なっていくことが非常に重要だと思っています。そういったことも含めて、私たちも具体的に何かしっかりお伝えできるようにしていきたいと思っています。

>> 発言12

バイオディーゼルのお話をいただきました。食用油の再利用等についても、これから私たちが更に検討しながら、いろいろな形で導入できるものについて導入していければと思います。

今回はどちらかというところエネルギーの問題を中心に取組を発表させていただきましたが、私たちとしては、移動手段を自家用車から、より二酸化炭素の排出が少ないものに変更していただくための取組もしています。その1つがさいたまクリテリウムです。これは単にレースをやっているだけではなくて、自転車の利用を増やそうという取組でもあります。いろいろな取組をしていますが、まだまだ市民の皆さんの心に届いていないと実感しているところです。地球温暖化の問題は本当に全ての人がいろいろな関わり方をして、少しでも、今よりも一歩でも二歩でも前に進める取組をしていくことが重要だと思っています。100点満点というのは多分ないのだと思います。でも、100点満点は取れなくても100点に向かって頑張っていくことが重要だと思えますし、私たちとしてはこの2050年にゼロになるための計画をつくりながら、できるだけ市民の皆さんにも見える化をして、その成果やその進捗状況をお伝えしながら、進めていければと考えているところです。

今日は大変長時間、皆さんにいろいろな御意見をいただいたことを改めて感謝と御礼申し上げます。これからも引き続き発信すべきところは発信をしながら、市民にしっかりとお伝えをして、ゼロカーボンシティと胸を張って言えるようにしていきたいと思っています。ありがとうございました。

■ 補足説明

「街路樹の拡充」について

街路樹のあり方については、「さいたま市街路樹維持管理基本方針」に基づき、自治会や地元のみならず調整を行いながら、検討してまいりたいと考えております。

(建設局 土木部 道路環境課)

「個人で緑や草花を育てている場合の助成」について

個人への補助として、生け垣助成の他に、建築物の屋上や壁面の緑化、敷地内の沿道を新たに緑化される方に対して、その経費の一部を助成する「みどりの街並みづくり助成制度」がございます。

(都市局 みどり公園推進部 みどり推進課)

「給湯経路の短縮に努める義務をハウスメーカーに課すこと」について

給湯経路の短縮に繋がるような取組につきましては、現状や他市事例、費用対効果等を十分に検証・研究しながら、検討をしております。

(環境局 環境共生部 脱炭素社会推進課)

「脱炭素先行地域に選ばれたことを啓発」について

脱炭素先行地域の選定を含め、市の脱炭素化への取組や今後のビジョンが市民の方々に見える化できるよう、様々な媒体を活用し、今後、広報周知活動を進めてまいります。

(環境局 環境共生部 脱炭素社会推進課)

「緑の保全をすることを、ハウスメーカーに対して指導する」について

ハウスメーカーへの指導につきましては、現状や他市事例、費用対効果等を十分に検証・研究しながら、検討をしております。

(環境局 環境共生部 脱炭素社会推進課)

「環境行政と消費者行政が一体化」について

今年の9月6日に本市は、環境省が新たな国民運動として提唱する、脱炭素を意味する「デ・カーボナイゼーション」と、環境に良い「エコ」、活動・生活を意味する「活」を合わせた、いわゆる「デコ活」に賛同する「デコ活」宣言を行いました。

デコ活とは、脱炭素につながる将来の豊かな暮らしの全体像・絵姿を紹介するとともに、国・自治体・企業・団体等で共に、国民・消費者の新しい暮らしを後押しすることとしており、環境行政と消費者行政が相互に協力しながら進めていくべきものと考えております。11月23日に開催された消費者生活展では、脱炭素社会推進課も参加し、デコ活の周知等を実施いたしました。今後も、消費者行政とも連携しながら、脱炭素に関する周知・啓発等を進めていきます。

(環境局 環境共生部 脱炭素社会推進課)

「土地のかさ上げ」について

本市では、降雨等により浸水する専用住宅や店舗等併用住宅の改良を支援し、市民生活の安定を図ることを目的として、浸水から住宅を防ぐ改良工事を行うために必要な資金を金融機関を通じて融資を行う「浸水住宅改良資金融資制度」があります。

(建設局 建築部 住宅政策課)

「アイドリングストップ」について

市職員においては、さいたま市生活環境の保全に関する条例及びさいたま市エコドライブ取組方針に基づき、率先してアイドリングストップを図っています。

(環境局 環境共生部 環境対策課)

「さいたま市のバスのアイドリングストップ」について

国際興業バス等、市内でバスを運行する事業者は、アイドリングストップ機能搭載バスを導入しています。

(環境局 環境共生部 環境対策課)

「県の運動も、さいたま市も一緒になって」について

本市でも、埼玉県が実施しているエコライフDAY&WEEKについて、市職員や学校等に実施の呼びかけを行っております。今後も、埼玉県と協力して事業を進めていくとともに、今後、様々な方法の検討や媒体を活用し、更なる広報周知活動を進めてまいります。

(環境局 環境共生部 脱炭素社会推進課)

「打ち水」について

当課では、7月に打ち水に関するイベントに参加している他、SNS等で打ち水の実施について呼びかけを行っております。

(環境局 環境共生部 脱炭素社会推進課)

さいたま市は、市民活動団体のさいたま市環境会議、コクーンシティ（片倉工業株式会社）、埼玉県との共催により、「さいたま打ち水大作戦」を例年7月に開催しております。打ち水を、参加者で一斉に行い、涼しさを体感できるイベントになっています。より多くの方にご参加いただき、打ち水の普及に努めてまいります。

(環境局 環境共生部 環境総務課)

「補助金」について

市で実施している各種補助金について、引き続き、市民へ情報の周知を図ってまいります。また、太陽光発電設備への補助金につきましては、今後の需要や他自治体の事例等を参考に見直しを検討してまいります。

(環境局 環境共生部 脱炭素社会推進課)